

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

東洋大学藤林・川原ゼミ 実施報告書



実施主体 社会福祉学科2年生藤林・川原ゼミ

実施内容 平成25年11月2日~3日大学祭並びに11月27日~29日大学内にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・それぞれのゼミにおいて、児童虐待への理解を深めるための学習を行った。
- ・その上で、グループごとに役割を決め、啓発活動を効果的に行うための方法等を検討した。
- ・資料やポスターの作成したり、新聞の切り抜きを掲示する場合の著作権の問題について調べたり、無料でDVDの貸し出しを行っているところを探したりした。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・学園祭における啓発活動として、法務省DVD放映、児童虐待の記事等の掲示、児童虐待についての文献やマンガの紹介、オレンジリボンの作成・配布
- ・大学内において、児童虐待について模造紙による掲示とオレンジリボンをつけたティッシュペーパーを配布

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・自分たちはオレンジリボンと虐待の関係が分かっているが、一般の人は理解していないので、もう少し児童虐待を前面に打ち出すべきだった。
- ・世の中には虐待のような社会問題に興味がない人が活動を通じて大勢いることをあらためて実感した。そのような人たちに興味を持ってもらうには、どのように工夫すべきか考え続けたい。
- ・オレンジリボンを配布することに恥ずかしさがあり、なかなか足を踏出せなかったが、グループメンバーが次々に配っている姿を見て、仲間と一緒に頑張ることとてもいい経験ができた。
- ・啓発対象を学生に絞ることで、それを基に伝える内容を工夫した。それによってより情報を的確に伝えることが出来るのではないかと思った。
- ・児童虐待という社会問題に取り組むことで周囲の人に耳を傾けてもらうことが、どんなに難しい行動であるか体験を通じて理解することができた。
- ・オレンジリボン運動に取り組む中で、まだ学生だけれど学生なりにできることはもっと沢山あるのではないかと思った。

